



# しおかぜ通信

八代市立郡築小学校  
校長 村嶋 博史



学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R8,2,25 No,37

## 「第3回タイピング大会決勝大会」を行いました

令和8年2月12日(木)の朝自習時間に、3年生以上の子供を対象とした「第3回タイピング大会決勝大会」を行いました。

この決勝大会は、先日行った全児童が参加した予選大会において、学級の成績上位3人、計12人によるものでした。音楽室で行われた決勝大会の様子は、学習管理システム GoogleClassroom を活用し全学級に配信し、全児童が見守る中で行われました。

さすが、予選大会を勝ち抜いた子供たちだけあって、そのタイピングスキルは見事なものでした。この姿を見ていた子供たちも「私ももっと練習しよう」などと意欲を増大させたことと思います。

すべての子供が、更なる向上心をもって練習に励み、今後はじまる全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)などの CBT 方式(端末を用いたオンライン実施)化に備えてほしいと思います。



## ボランティア活動を通して「気づく能力」が育っています

以前から、学校の隣にある神社の清掃を毎朝ボランティアで行っている子供たちのことはお伝えしてきました。その活動に少し変化が見られたのでご紹介します。

冬になり落ち葉集めが一段落したある日、2人の子供がブラシを持ってきて、なにやら懸命にこすっていたので覗いてみると、手水舎(ちょうずや)についた苔や汚れを必死に落としていました。また、木の根元にたまっていた落ち葉を懸命に掻き出し取り除いている子供たちもいました。

この子供たちには、ボランティア清掃を通して「気づく能力」(視野の拡大)が育ったのだと思います。この「気づく能力」は、将来にわたって自分や自分を取り巻く人たちを幸せにする能力だと思っています。

暑い日も寒い日も風の強い日も毎日活動し続けた子供たちを誇りに思うとともに、このボランティア活動が郡築小学校の子供たちに継承されていくことを願っています。



## 「薬物乱用防止教室」を行いました

令和8年2月13日(金)に、学校薬剤師の方を講師にお迎えし、6年生を対象に「薬物乱用防止教室」を行いました。

この「薬物乱用防止教室」は、児童生徒に薬物の危険性について正しい知識をもたせ、自分自身の心身を守るための意思決定能力や断るスキルを身につけさせることを目的に小・中・高校で実施されているものです。

そこで、次のような正しい知識の習得と意識化や、対処能力の育成などについて、多くの場合、学校薬剤師や警察職員などの専門家が講師を務め、現場のリアルな実態や医学的・法的な専門知識を伝えています。

- 心身への弊害の理解  
薬物が脳や身体に与える破壊的な影響や、依存症の恐ろしさを正しく理解させます。
- 身近な問題としての認識  
薬物乱用を遠い世界の出来事ではなく、SNSや知人の誘いなど、日常生活に潜むリスクとして捉え直させます。
- 社会への影響  
個人の健康だけでなく、犯罪や家庭崩壊など社会全体に深刻な悪影響を及ぼすことを学ばせます。
- 断るスキルの習得  
友人や先輩から誘われた際に、きっぱりと断る具体的な方法や勇気を養います。
- 意思決定能力  
誘惑に直面した際、自分の人生にとって何が大切かを考え、適切な行動を選択できる力を育てます。



現在、違法薬物はSNSを通して誰でも簡単に手に入られます。それに伴い、薬物乱用の低年齢化が進んでいます。

お子様と機会ある毎に、違法薬物の心身への影響などを話し合われてみてください。その際、厚生労働省が発行していますリーフレットをご活用ください。(右の QR コードからご覧いただけます)

